

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年4月18日】第120号



タブレット引き渡し式

子どもたちの学びは、友だち同士の学び合いで深まっていきます。コロナ禍にあっても、対面での授業を止めないのはそのためです。同時に、ICT教育を進めていくことも必要です。農大稲花小でも各種ICTの導入を進め、また、学年分のタブレットを備え付けて授業や校外学習での活用をはかっています。これらの経緯を踏まえ、4年生では個人タブレットを利用することとし、この度、保護者の皆様のご理解を得て一括購入をいたしました。

4月11日(月)の稲花タイム「タブレットを使おう」では、富士通 Japan 株式会社からの2名により、会社の紹介やタブレットを使うときの注意等をお話しいただきました。このタブレットには学習に必要なソフト「K-12 学習情報活用 知恵たま V2」や、利用者がパソコンの環境を変えても再起動するだけで自動的に正常な環境に復元し、トラブルの未然防止をする「future 瞬快」を装備しています。児童は真剣な面持ちで箱を開け、保証書類、電源アダプター、タブレット本体、スタイラスペン・ストラップを取り出してセットするとともに、充電を開始しました。

また、タブレットでできること、タブレットを使うときに注意しなくてはならないこと、さらに個人情報を守ること、情報を正しく選び正しく使うことなどについて、学びました。最後に、皆で一斉にタブレットの電源を入れ、無事にタブレットの引き渡しが完了しました。子どもたちの誰もが、自分のタブレットを大事に使おうと決心したことでしょう。

校長は ゲストティーチャー

4月12日(火)、3年生の稲花タイムは「マメの不思議」。校長がゲストティーチャーとなって授業をしました。直径が4cmほどもある大きなマメ「モダマ」を見せて、まず子どもたちをマメの世界へ導きます。これからの季節に美しく咲く藤もマメの仲間だということには、誰もがびっくりしていました。エンドウマメの花を解剖してその構造を見せ、さらに、いろいろなマメの種類や利用を学んだあと、一人一人にアズキ、ダイズ、3種類のインゲンマメ(虎豆、鶉豆、福良金時)、ヒヨコマメ、リョクトウ、レンズマメを配布し、両面接着テープで小型容器に貼り付けて、「マメの標本」を作りました。「リョクトウは英語ではどういいますか」「じゃあ、レンズマメは英語では？」と積極的な質問も飛び出します。どのマメにも目(へそ)があることに気づいた子どももいました。ナッツとマメはどこが違うのかを考えたり、給食でヒヨコマメ入りのカレーや、カリカリダイズを食べたことを思い出したりもしました。

3年生はこれから、畑ではエダマメを栽培し、国語では大豆の利用についての説明文を学び、2学期以降は企業のご協力を得てのしょうゆ塾、さらに豆腐作りと、マメについて多くを学んでいきます。「教科横断的カリキュラム」という意味も持つ「マメの不思議」の授業は、その導入として行いました。ご家庭でも、いろいろなマメを見たり、食べたりして、子どもたちと一緒に楽しみまわってはいかがでしょうか。

1年生のキャンパス見学

4月15日(金)、農大稲花小1年生の稲花タイムは、「大学のキャンパス見学」でした。まず、農大稲花小が東京農業大学の小学校であること、東京農業大学は130年前に榎本武揚公が作ったことを説明しました。次に、大学のキャンパスを訪問するときの、マナーについて皆で考えました。おじい様やおばあ様のおうちにいくことを想像してみました。「これから行きますとお知らせしてから行く」、「ふざけたり、騒いだりしない」、「挨拶をする」「勝手にいろいろなものに、さわらない」等の期待した以上の答えが出てきました。

あいにくの雨でしたが、子どもたちは2列に並んで、キャンパスへ。アカデミアセンターの屋上庭園に入れていただき、遠くまで見える景色を楽しみました。よく見ると、目の下に見える農大稲花小のテラスで、教頭先生が手を振っています。これに応えて、子どもたちも大きな声で、教頭先生に「おーい」と呼びかけました。このほか、屋上の太陽光パネルや太陽光集光機も見ることができました。続けて、理事長室と学長室の前を通過してご挨拶をした後は、中庭に行きました。中庭にある榎本武揚公の胸像、また、背の高いメタセコイヤの木などを見てから、学校に戻りました。

教室に戻った子どもたちは、様々な絵を描いて、今日のまとめをしました。「榎本先生がいたから小学校があってよかった」、「メタセコイヤのまつぼっくりを拾いたかった」、「屋上から、自分の家が見えた」等いろいろな感想もあり、また、説明は特にしなかったのですがロビーに置かれていた東京農業大学第一高等学校・中等部美術部の生徒が作った段ボールアートのワニに一番興味を持ったという子どももいて、それぞれの個性がうかがわれました。

キャンパス見学にあたっては、東京農業大学のご関係者にご理解とご協力をいただきました。

春休みに作ったよ

昨年度の3学期、東京農業大学食品加工技術センターの野口智弘教授にご指導をいただき、2年生は米粉を使ったみたらし団子作り、3年生は豆腐作りを学びました。新型コロナウイルス感染防止のため、教室では実験の一部のみとし、春休みに各家庭でみたらし団子や豆腐を作るという、農大稲花小でもはじめての企画で行いました。このため、子どもたちは特製だんご粉や豆腐作りセットを、家庭に持ち帰り、春休みを迎えました。

宿題とはしていないので、全員からではありませんが、それでも、春休みに親子で楽しく取り組んだ様子が満載のレポートが始業式以来、提出されてきています。レポートを読むと、子どもたちが保護者とともに楽しくみたらし団子作りや豆腐作りに取り組んだ様子がわかります。レポートの体裁も様々に工夫され、子どもたちの個性がのびやかに現れています。よい学習になったことがうかがわれ、ご指導くださった野口先生、そして、特製だんご粉を本校のために調整し、ご恵贈くださった日の本穀粉株式会社様にも感謝します。

東京農業大学食品加工技術センター：<https://www.nodai.ac.jp/campus/facilities/farm/food/>

五月人形

今年も、教員の手で図書室前のスペースに、鎧が飾られました。兜・胴・大袖の3つの部分からなる甲冑です。本校では3月には雛人形、5月には鎧を飾って、子どもたちが季節や伝統行事を感じることを願っています。農大稲花小正門脇にあるカシワの木は、今はまだ茶色い葉しかついていません。しかし、これから急に若葉が出てくるのです。若葉が出てきたら、子どもたちに柏餅の話ができると楽しみにしています。



東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子